

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 22 年 2 月 26 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームぬまくま (広島県)
評価調査員の氏名	氏名 延平 和子 氏名 羽原 高代 ・ 寺岡 信香
事業所側対応者	職名 ホーム長・ユニットリーダー 氏名 岸田 浩子・佐藤 徳子・羽田 春枝・池原 スエコ ヒアリングを行った職員数 (3)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3474300245	(評価機関で記入)
法人名	医療法人社団 沼南会	
事業所名	グループホーム ぬまくま	
所在地	福山市沼隈町常石1284番地3 (電話) 084-987-4115	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 22 年 2 月 26 日	

【情報提供票より】 21 年 2 月 1 日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	昭和 平成 13 年 4 月 1 日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	21 人 常勤 19 人 非常勤 3 人 常勤換算 20.2 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5 階建ての 3 階 ~ 5 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (八戸一時立付 金)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1 円	

(4)利用者の概要(2 月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性 8 名	女性 19 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名
要介護3	7 名	要介護4	5 名
要介護5	6 名	要支援2	1 名
年齢 平均	88 歳	最低 59 歳	最高 101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	常石医院・沼隈病院・黒瀬デンタルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日平成22年3月10日

海と山に隣接しており活気ある造船の街に位置し、3階・4階・5階の3ユニットからなる事業所である。母体が医療機関の為利用者・家族共健康面への不安は無く、職員育成の面からも介護面のみならず医療面についても充実した研修が行われ職員の質の向上に繋がっている。利用者へのケアに関しては、各階ごとの特徴を活かし利用者の希望を重視し、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。外出については、季節が満喫できる様利用者・家族・職員が一緒に花見等に出かけたり、造船所の進水式へ参加したり地域社会との共存を肌で感じることが出来る支援を行っている。更に看取りについての指針や、計画書の作成もされており、管理者・職員の利用者・家族に対する前向きな姿勢が顕著に感じ取れる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価結果について法人内の会議で報告し職員にも周知し、改善に取り組みされた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義については、ミーティングや勉強会の中で理解を得ている。自己評価は全職員によって作成され振り返る機会となった。外部評価は法人内の会議で報告し職員にも周知し、改善に取り組みされた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定期的開催し、家族会会長・副会長・家族・地域住民・包括センター職員・行政担当者等の参加により事業所の状況についてや外部評価の結果等の報告をしている。参加者の意見や要望を聴き取りサービスの向上に繋げている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>意見箱は設置されている。家族会や運営推進会議で意見交換を行い意見要望を聞き取るよう努め、その中で出された内容については職員で共有し対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事・奉仕活動等に利用者と共に参加し、交流を深めている。福祉祭りには利用者が作成した作品等も出展したり、集会所での映画鑑賞や、柏餅作り等にも参加し顔なじみの関係作りに努めている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念と基に地域になじんだ環境づくりを目指し、地域の中で生き生きと暮らせる支援をしていくという方針が掲げられている。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホール内やエレベーターの誰でも見やすい所に掲示し、フロアーミーティングやケアカンファレンス、勉強会で共有し、実践に繋げている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事・奉仕活動等に利用者と共に参加し、交流を深めている。福祉祭りには利用者が作成した作品等も出展したり、集会所での映画鑑賞や、柏餅作り等にも参加し顔なじみの関係作りに努めている。		
な					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、ミーティングや勉強会の中で理解を得ている。自己評価は全職員によって作成され振り返る機会となった。外部評価は法人内の会議で報告し職員にも周知し、改善に取り組まれた。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、家族会会長・副会長・家族・地域住民・包括センター職員・行政担当者等の参加により事業所の状況についてや外部評価の結果等の報告をしている。参加者の意見や要望を聞き取りサービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要におおじて社会福祉協議会、保健福祉課等の担当者との連携をしアドバイスや情報提供を受けサービスの質の向上に活かしている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りを毎月送付し訪問時に暮らしぶりや預かり金等の報告をしている。緊急の場合は随時電話で連絡を取っている。職員の異動は便りで報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置されている。家族会や運営推進会議で意見交換を行い意見要望を聞き取るようにしている。その中で出された内容については職員で共有し対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内で介護のマンネリ化を防ぐためユニット間の異動は行っているが、最小限に抑えている。ユニット間の交流があるため利用者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は年間計画を立てられ月1回実施している。事業所内研修は3カ月に1回勉強会を行っている。外部研修は希望により参加し、出席者は伝達講習で職員に周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流は行っている。他の同業者とはお便りの交換をしている。今後は他の事業所との連携交流に取り組む予定である。		法人内の事業所との交流に留まらず、他の事業所との交流の実現に向け取組まれその中で勉強会や相互訪問の活動を通じ、サービスの質の向上に繋がれることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者、家族と共に見学をしてもらい、希望があれば体験も出来る。利用開始後は生活歴を把握し1対1で馴染めるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	生活歴や会話の中から生活の知恵や料理、季節の行事等を教えてもらっている。感謝の言葉をかけてもらい、共に支え合って生活している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	生活歴を重視しその人に合った生活が出来るよう工夫し声かけや対応の中で希望や意向の把握に努めている。困難な方には表情や日々の観察の中から察知している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	カンファレンスを開催し本人、家族の意見要望や医師等の指示等を基に月1回のフロアミーティングで職員間で話し合い計画を作成している。出来た計画は家族の承諾を得ている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	日々計画についてチェックし1週間に1回評価を行い6カ月毎に見直しをしている。状態に変化があればその都度医師の意見を取り入れ計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的に理学療法士が訪問され、介護用具の適切な使用方法やアドバイスをしてもらっている。3カ月に1度栄養指導も行い、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが協力医療機関であり、定期的な受診の支援や訪問診療の支援もある。家族の希望により他の医療機関の受診もできる。24時間訪問看護による体制が出来ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を作成し家族の同意も得ている。重度化した場合は本人家族、医師、職員で看取り計画書を作成し方針の共有し勉強会も定期的実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮された声かけである。個人記録は目のつきにくい所に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床は強制せず本人ペースで支援されている。気分転換で外出の希望が多く、出来るだけ希望にすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助の必要な方のそばに寄り添い、声かけをしながら行っている。身体状況に合わせた食事形態となっている。テーブル拭きや下膳など個々の力量でされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2、3回の入浴となっているが本人の意思を尊重し希望に添った支援をされている。拒否のある方には声かけの工夫をし清潔保持に努めている。パジャマや下着類も小まめに交換している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下膳、下ごしらえ、洗濯タタミ等力量によりされている。フラワーアレンジメントや折り紙、カラオケなど生活歴を活かした支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常は屋上でお茶を楽しんだり、買い物に出かけたりしている。季節により花見等家族と共に出かけている。造船の町で利用者が馴染みのある進水式にも出かけ気分転換をはかってもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠されていない。事業所が3～5階にありエレベーターでの使用は自由に出来る。利用者の状態を考慮し部屋替えで工夫し見守りで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回夜間を想定し地域の方にも参加してもらい訓練を実施している。運営推進会議や家族会でも協力の要請もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3カ月に1回併設医療機関の管理栄養士による栄養指導があり、体重チェックを行い適切に管理されている。水分は1000CC～1500CCを目標に摂取されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアで特徴のある飾り付けをされ利用者と共に造られた作品もおかれている。不快なおいもなく清潔に保たれている。全体的に絵画が飾られ、心が安らげる共有空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの個性が感じられる装飾品や家具が持ち込まれ、安らぐことの出来る居室となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ぬまくま (3 階)

評価年月日 2010 年 2 月 26 日

記入年月日 2010 年 2 月 18 日

記入者 代表/管理者 氏名 佐藤 徳子

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念「笑顔でいきいきとその人らしい人生を支援します」をもとに地域の人々とともに入居者の日常生活の支援を行っている</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>各階スタッフルーム及びホールに掲示、職員の名札の裏に明記し、フロアミーティング、ホーム勉強会などで再確認し、実践している</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念をエレベーター内、居間等に掲示し、家族会(隔月)で家族との情報交換、又地域の行事等に参加し、理解協力を求めている</p>	
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>地域の行事、奉仕活動に参加したり、一緒になって消防訓練を行ったり、併設医院も含め、なじみの隣近所の方が立ち寄り、野菜、花等持ってきて頂いたり、気軽に挨拶したり、声かけあったりしている</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事、奉仕活動に参加し、日常の付き合いに努めており、諸行事、老人会、福祉フェスタ等参加したり、ホームの行事に招待したりして交流に努めている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の馴染みの方、友人など訪問されたり、地域の夏祭り、敬老会等の行事支援に努めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム勉強会、フロアミーティングなどで協議し、改善に向けて協議し、サービスの質の向上に向けて努めている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議にて現状を報告し、意見や要望などを法人内3グループホーム会議で協議検討し、全職員に周知し、サービスの向上に努めている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同法人の居宅介護支援事業所を通じて市町村担当者との連携によりサービスの向上に努め、また入居者の生活保護の担当者、社会福祉協議会の担当者との連携、協力し、行き来している		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議で地域の地域包括支援センターの担当者から地域の権利擁護事業について勉強会を開催し、実際金銭管理を活用していることも周知している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人内外研修会、ホーム勉強会にて学んでいる全職員が日常生活の中での言動、行動に注意し合う関係で虐待がないよう防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時に重要事項説明書、契約書など十分説明し、疑問不安等あればいつでも尋ねて頂く様理解、納得されるよう努めている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者とゆったり話せる時間を取り、入居者の不満、苦情に対してはフロアミーティング、リーダー会議等で全職員周知し、改善に向けて努めている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月便りを送付し、日常の生活の様子など報告したり、2ヶ月に1度の家族会にて伝えたり、随時面会にて報告、急を要することは電話連絡にて、預かり金明細も報告している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱設置したり、契約時公的な苦情相談機関があることの説明している 出来るだけ家族、職員間で何でも相談できる関係になるよう心がけている 意見があれば全職員周知し、運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロアミーティング等で職員の意見、提案を聞いたり、個別にヒヤリングを行ったりして、リーダー会議又は運営会議で検討し、運営に反映している</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて勤務変更したり、他ユニット内で連携をとり職員配置している 人手を要する行事についてはボランティアの応援してもらっている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>マンネリ化防止、活性化のため異動行っているが、入居者の不安、混乱がないよう最小限に抑えるように配慮している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ノレベルに応じてOJT及び社外研修、同法人研修を図っている又、目標管理による自己啓発の促進も行っている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の委員会などを通じて交流したり、関連のグループホーム間で会議開催したり、勉強会など行ったりしてサービスの質の向上に努めている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者及び職員のストレス軽減するためにサークル活動や行事を行ったり、親睦会を開いたり、また個別に話し合いの場を設けるようにしている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全職員年度初めに自己目標を立てて取り組み、管理者は把握し、努力、実績の評価をしている 運営者はその目標管理を行っている		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前見学及びこちらからの訪問を通して本人、家族の要望、要求、質問に対して充分話し合いし、安心して暮らせる環境づくりに努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前見学及び面接時等で要望、要求など充分話し合いを行い、不安解消になるよう努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき、本人、家族が本当に望んでいるのか見極め本人にとって必要ならば、関連事業所や他サービス等と居宅介護支援事業所と連携し適切な対応に努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族から情報収集して安心してサービスが受けられるよう、他入居者や職員に紹介して馴染めるよう、安心して暮らせるように工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	無理強いせず、本人の意思を尊重して出来る事はしていただき、個々人の言葉に傾聴し、向き合い共に過ごし、家族のような関係を築いている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度家族会開催して共に入居者と支える体制をとっている一緒に夏祭り、花見などの行事に参加して頂き、一緒に支えていく関係を築いている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時などにて現状報告等積極的に家族と話したり、本人の能力に応じ、言葉だけでなく触れ合いを大切にしたい関係作りに心がけている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の友人や教え子、または地域の馴染みの方等面会に来られ、本人の居室にてお茶などでもてなし、ゆっくりとして頂けるよう支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常的にホールにて昔のこと等を相槌うちながら、会話をしたり、歌を歌ったり、その場の雰囲気を楽しんでおられる方など、レベルに合ったかわり方で馴染んで活かされるように努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了しても情報提供を行ったり、面会や見舞いに行ったり、契約終了後も関係サービス事業所や入院であれば関連事業所との連携をとるように図っている		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望，意向を重視して本人の決定を最優先しながら他入居者との調和が図れるように努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時面接などで本人、家族の情報をもとに本人を取り巻く関係、生活環境などの把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送り、生活、経過記録などで職員が共有し、総合的に把握するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために課題分析し、本人及び家族の希望や意見を踏まえた介護計画を作成している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎日の実施記録し、1回/月のモニタリングで評価している。また、状態変化が生じた場合、本人、家族の意見を聞きながらケアカンファレンス、ミーティングなどで話し合い、新たに介護計画を変更作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の内容、生活、経過記録、介護日誌などで共有して気づきや工夫を記入し実践や介護計画の見直しに生かしている		
3 . 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人内の病院、併設の医院、訪問看護、訪問リハビリ、管理栄養士など要望、状態に即して柔軟な対応を支援している		
4 . 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向に応じて地域の方、民生委員、消防、ボランティアなどと協力しながら支援している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の要望を取り入れ、訪問リハビリ、栄養指導を行ったり、主治医による訪問診療などの支援や、地域の公民館の行事に積極的に参加するように支援している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人、家族の希望に応じて地域包括支援センターと連携し、他のサービスの利用の情報入手したり、権利擁護(金銭管理) 利用し、社会福祉協議会とも協働している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医院で本人の負担のないよう主治医の訪問診療受けたり、訪問看護師の健康管理行ったり、本人の希望あれば、他の医療機関の適切な医療が受けられるように支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人、家族の希望により、併設医院の専門医の受診したり、職員が相談したり、して、適切な治療を受けられるように支援している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理のチェック、アドバイスや状態変化の相談、指示等訪問看護師に気軽に応じてもらっている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	同一医院、病院との連携は充分取れていて、病院のソーシャルワーカー、看護師長、医師との情報交換したり、家族同伴で病状説明をしてもらったりと協力、連携している		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応の指針について入居時説明し、書面も記入してもらっている。また、必要性が出てきた場合には随時、本人、家族、医師、職員全員で話し合い、共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃から重度化したり、見取りについての本人、家族の意向を確認し、見取り介護を希望される方には主治医、訪問看護師、介護職員等と連携取り、穏やかな終末期を過ごされるような見取り介護計画を作成するように支援に取り組んでいる		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の希望にて別の居所に移り住む時には、本人に関わる職員、移り住む居所のケアスタッフ関係者との十分な話し合い、情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人権を尊重した声かけや対応に心がけると共にプライバシーを損なわないよう個人の記録、個人情報の管理には充分気をつけ機密の保たれる場所に管理している	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を聞き、皆でお寿司を食べに行ったり、個別で誕生日にドライブしたり、喫茶店でお茶を飲んだり、表現困難な方には、家族の要望をお聞きし、納得した暮らしを過ごすよう支援を行っている	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて食事時間をずらしたり、入浴時間を午前中にしたり、個々人に合わせた生活、希望に沿ったケア支援に努めている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に応じた身だしなみに日々気配りをし、外出時にはおしゃれし、口紅をひく方もおられる。又、毎月1度地域の理容院に来てくださり、希望の方は行っている。家族の方が来られて本人の散髪をされている方もおられる	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が出来る方には、野菜の皮むき、切ったり、ごまをすったり、テーブル拭き、下膳等手伝ってもらっている。また、入居者と一緒に会話を楽しみながら、食事している	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的に食べたいメニューを聞いて行事の時に寿司を作ったり、おやつでたこ焼き、お好み焼きを作ったり、花見、忘年会にはビール等好きな方には飲んでもらったり楽しめるよう支援している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、入居者が心地よく過ごせるよう配慮すると共に極力オムツ使用しないように努めている</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>その日の状態により、希望の方は入浴介助を行っており、基本的には、午後入浴になっているが、希望により、午前に入られる方もおられる</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>入居者に合わせた起床、睡眠に努めている休息についても本人の意思を尊重し、気持ちよく過ごせるように支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>出来る方には洗濯物をたたんだり、食事の手伝い等役割を与え、張り合いや喜びがある日々が過ごせるように努め、時には他のユニットに訪問したり気晴らしや楽しみが出来るよう支援している</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望により買い物に同行し、本人の欲しい物を選んで支払いが出来るよう支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良いときには、本人の希望により、5階屋上に出て日向ぼっこしながら、おやつを食べたり散歩、買い物などの支援をおこなっている</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ドライブ、外食等入居者と出掛けられる機会を作り支援している。また、季節ごと家族にも声をかけ一緒に出掛けられる行事も行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には自由にしてもらっており、介助が必要な方には本人の伝えたいことをお聞きし伝えるように支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由に行ってもらっており、家族、馴染みの友人、昔の教え子等来られ、居室内で椅子やお茶など出してゆったりと話しやすい環境づくりの支援を行っている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム勉強会、講習会を通じて理解し、共有するよう取り組んでいるまた、身体拘束の無いケアを実践している		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	十分な見守りを行うことにより、居室には鍵はなく、玄関も日中は開放されており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを尊重し、昼間は職員同士で入居者の所在、様子を確認しあい、夜間では1時間ごとの巡回を行っており、安全確認している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤など危険な物は目の届かない所に保管し、入居者の自立度に応じて使用を支援し危険を防ぐ努力をしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	同一法人内の転倒防止委員会、リスクマネジメント委員会等に参加し、事例検討したり、防止策などを共有している。また、外部の研修、勉強会など参加し、事故防止に取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	同一法人の病院スタッフの救急蘇生委員会より勉強会やホームにてAED講習、緊急時対応マニュアル等の説明、体験講習を定期的に行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を行っている。昼夜間の設定を定め、消火、非難等行い、体験している。、地域の方も参加され、災害対策の避難場所の経路の確認など地域の方の協力が得られるように働きかけている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の訪問時また電話により、その都度の状態変化を伝え、常に危険性が高いことを説明したうえで抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を講じている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、状態変化あればすぐに対応出来る体制をとっている。夜間の場合は訪問看護師の指示のもとで同一法人の病院で対応出来るよう体制を整えている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理できない方には、職員が管理し、個々人の薬の文献にファイルし、常に目を通し確認に努めている。病状の変化に対しては併設の医院で対応している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、ラジオ体操、ストレッチなど運動に心がけたり、水分補給や食事形態に気を配り、排便コントロールを行い、快適な生活が送れるように支援している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声掛けを行ない、介助が必要な方には、義歯の洗浄や口腔内の洗浄、又はガーゼにて口腔内の残渣物を取り除くなどして口腔内の清潔に心がけている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内管理栄養士からカロリー計算された献立でバランスの取れた食事を提供している、また3ヶ月に1回栄養指導も受けている。水分に関しては水分摂取量を記録し、十分な水分の確保に努めている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアル、標準予防策など定期的に法人内で講習受たり、完成予防対策委員会で検討、話し合い予防に努めている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの徹底、エプロンのクリーニングの徹底と調理用具は毎回消毒し洗浄、乾燥に努めている。また、食材は必ず火を通して		
きづき				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	分かりやすい看板や医院の前の花壇に季節の花を植え、心が和む配慮し、家庭的な雰囲気が出るよう工夫している。また、各階エレベーター前に四季折々の飾りを行い、雰囲気作りに気を配っている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下伝いの壁に絵画や写真、皆で作った作品、四季折々の花等飾り、ホールの窓が大きく季節の移り変わりが良く見えて、またキッチンからは、食事の準備の音や匂いが生活観、季節感を感じて居心地よく過ごせるよう工夫している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファがあり、座ってくつろいだり、廊下の椅子に座って景色を見たり、仲の良い方とおしゃべりしたり、思い思いに過ごせるように工夫している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、使い慣れたタンス、家族の写真、本人趣味の作品の額、使い慣れた椅子、ソファ等持って来られて居心地よく過ごせるよう工夫している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に気を配り、温度、湿度設定を決めている。個々の状態により小まめに調節している。匂いに関しては、消臭剤や窓の開け閉めの調節をこまめに行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状態に応じてベッドの高さ調整できる物、移動手段は個々人の状態に合わせた歩行器、車椅子、リクライニング等法人の理学療法士にアドバイスしてもらい、安全、安心した生活を工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレがわからない方には目印の絵や分かりやすい言葉を張り紙したり、居室がわからない方には、飾りをつけたり、名前を大きくして見やすくしたり、混乱を防ぐよう工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りの花壇に季節の花、野菜等植えて気分転換に散歩したり、ベランダには椅子を置いて陽が当たる時には仲の良い方と日向ぼっこされたり楽しまれている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々人の身体状態、能力に合わせたケア（誤嚥防止の口腔ケア、水分チェック、排便コントロールなど）に力を入れている。特に3階は重度の方が多いので、ほとんど入浴も特別浴槽で一人ひとり安全に入浴出来るよう配慮している。スタッフ全員で個々に合わせた対応を常に検討、遠慮なく意見交換できるチームで働きやすい関係である。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ぬまくま (4 階)

評価年月日 2010 年 2 月 26 日

記入年月日 2010 年 2 月 18 日

記入者 代表/管理者 氏名 羽田 春枝

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	基本理念「笑顔でいきいきとその人らしい人生を支援します」をもとに地域の方々とともに入居者の方々の暮らしの支援をしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	各階のスタッフルーム及びホール内に掲示・スタッフの名札の裏に明記し、フロアミーティング・勉強会・ケアカンファレンス等で再確認し実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	理念をエレベーター内に掲示するとともに、家族会・運営推進会議など機会あるごとに説明し、家族や地域の方々への理解・協力していただけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	地域の福祉を高める会等で活動されておられる方や、近隣の方々とふれあう中で、レクリエーションの参考になると教わったり、季節の花・野菜等持って来られたりしている。併設の医院もあり気軽にあいさつしたりする機会も多々ある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域の行事や奉仕活動等、可能な限り参加し日常のつきあいに努めている。又、敬老会・夏祭り等とともに参加し、交流する中でつきあいを深めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々が活動内容にふれ、職員を通じて入居者の方へ活用させていただき、折に触れ地域の行事等には出展等で参加させていただいたり、夏祭り・敬老会に参加したりと可能な限り取り組み実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は自己評価、外部評価を実施する意義をミーティング・勉強会等で常日頃から話題にし、不足部分の改善に努めサービスの向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議などの報告・意見・要望等をフロアミーティングで周知し、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、社会福祉協議会・担当者に金銭管理していただいている及び、保健福祉課生活保護の担当者等その他福祉関係者と連絡・行き来したり、連携を取っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習会・法人内勉強会及びホーム勉強会にて勉強し周知している。必要な方には社会福祉協議会のかけはし制度や精神障害保健など、実際に活用支援を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人内外の講習会・勉強会で学ぶ機会を設けたり、グループホーム独自での勉強会等で日常の態度、言動で虐待につながることはないかお互い確認、指摘し合う取り組みをして防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、契約書・重要事項説明書等の資料に基づいて充分説明し、不安・疑問点があれば、いつでも尋ねていただけるよう、また解約時も話し合い理解・納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見など表せるよう受身の体制で常に耳を傾け、意見があれば全職員で会議し、対策を講じて運営に反映出来るよう努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>金銭管理については、預かり金をさせていただいているので、定期的に明細を送付している。ホームでの生活・健康状態は、異変があったり、急を要する場合は電話連絡にて随時報告している。又、面会時にも、様子を報告したりしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議・家族会などで意見交換の場を設け、管理者・職員にも相談していただき、その意見を全職員で共有・反映するよう努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロアーミーティング等で出された意見をリーダー会議・法人運営会議に図り運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて勤務交代したり、他のユニットと連携を取り職員を配置している。人手の要る行事等はボランティアで応援をもらっている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>マンネリ化または活性化のため異動行っているが最小限にとどめ入居者の不安、レベル低下にならないよう注意しながら配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や外部の研修などで育成を図る。また、目標管理による自己啓発の促進を図っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連のグループホーム間で定期的話し合いの時間を取ったり、勉強会等を行いサービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減するためにサークル活動、行事など行ったり職員の親睦会をしたり、または個人の話し合いの場を設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は何度の初めに自己目標を立て取り組んで行き、管理者はそれを把握し実績の評価をし、運営者はその目標の管理をしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報を頂き要望・要求等十分に話し合いを行い安心して暮らせる環境作りに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前相談などにより要望・要求に対して話し合いを十分行い不安解消となるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・要望に対して、フロアミーティング等で話し合いのほか、介護支援専門員・市町村との連携によりサービスに努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族より情報を収集し安心してサービスが受けられるよう配慮している。趣味や得意なものなど情報を集め、他の入居者とのコミュニケーションが取れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人を尊重し無理強いせず、出来る事は手伝って頂き、共に支えあう環境作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時に思いを話し合っている。入居者にとってどうすれば良いのか共に考えている。又、行事には家族にも参加頂き一緒に支え合う関係を作っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会など家族と本人とのかけ橋になれるよう積極的に話題作りをしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会は積極的に受け入れ、ゆったりと話が出来る場面を作り、関係が続いて行くよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゲーム・好きな歌などで全員が楽しめるよう考えて、入居者同士のコミュニケーションが取れるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じての情報提供を行い、退居された場合にも在宅サービスや入院に切り替える事で協力機関との連携をとっている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向を大事にし他の入居者との調和が図れるように努める。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の折、面接行い、本人・家族より情報を得たり、本人との会話により得た情報を職員が把握できるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り・ミーティング・経過記録などに記入し職員が把握するように努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、ケアカンファレンスを行い本人・家族の意見・要望など聞きながら介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは6ヵ月毎にしてあり、変化があった場合はその都度プランを立て替えている。月1でモニタリングをおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録・フローシート・相談記録の活用、カンファレンスに活かしたり、申し送りノートの活用にて情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて併設の医院・法人内の病院・、訪問リハビリ・訪問栄養指導など受けたり、外出支援などの柔軟な対応をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域行事への参加・ボランティアによる訪問演奏に求められたり、また地域の民生委員の協力を得たり、地域の消防署から消防訓練の指導に求められたりと協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な場合は関連のまり居宅介護支援事業所との連携を取っている。本人・家族の要望を聞き訪問リハビリや地域の行事に参加する為の支援も行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	関連のまり居宅介護支援事業所と連携したり、地域包括支援センターとも相談したりアドバイスを受けたりと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医院より入居者の負担がかからないように訪問診療にしている。家族の希望があれば他の医療機関の受診できるように体制作りを行い支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>主治医と連携を取りながら、本人と共に家族・職員が相談に行ったり、変化に伴って診断・治療を受け状態変化を報告している。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>併設の医院の看護師が把握しており、定期的に訪問看護師による健康管理を行っている。急変の場合も相談し指示をもらっている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>同一法人の医院・病院との連携で入院中の様子や早期退院に向け、医師・看護師長・相談員と連携を取り合い相談している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化・終末期のあり方について、入居時に話し合っている。また、必要性の出た時には医師・本人・家族と確認し、職員と情報を共有している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人・家族の希望を組み入れ、ホームにて穏やかに過ごす事ができ、法人グループの中で穏やかに終末期を過ごす事が出来るよう医師・看護師との連携を取りながら行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人・家族の希望があれば、別の居所へ移られる際には本人に関わるスタッフ同士で話し合い情報交換を行いダメージを防ぐよう努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の人格を尊重して、声かけに注意しながらプライバシーに考慮するよう心がけ対応している。個人記録などの書類は、機密の保たれる場所に保管している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望により、外出支援やおやつの手作りを一緒に作ったりして自分で納得しながら暮らせるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝ゆっくり寝ていたい人・食事も今食べたくない人など時間をずらしたり、希望に合わせてケアに取り組んでいる。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみは、本人の好きな服を着ていただいております。季節に合わせた洋服を着ていただくよう支援しています。ボランティアで地域の方に化粧を教えてもらったり、地域の理容院から月1回希望の方は散髪していただいております。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の下準備(皮むき・もやし根取り)、食材分けなど出来る方には無理強せずにしていただいております。また、下膳・テーブル拭きなどの手伝いもしていただいております。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>家族会の行事には、本人が好むようなお酒を適量飲んでいただいたり、おやつも手作りの物を出したり、ケーキ・かしわ餅などで入居者と一緒に作ったりしている。食事は入居者の状態に合わせた状態にて支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンを職員が把握して、それに沿ってトイレ誘導を行っている。また、介助が必要な方には陰部洗浄などにより常に清潔を保つよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>その日の状態により入浴介助(一般浴・特浴)を行っている。決して無理強することなく気分良く入浴していただけるよう支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>個々に合った起床・睡眠に努めている。安心して休んでいただけるよう環境整備など行ったり、各々の生活習慣に応じた支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>各々出来る範囲内で手伝い(洗濯物たたむ・ゴミ出し)をしてもらっている。また、全員参加できるようなレクを提供したり、各々、居室にて音楽を聞いたり、本を読むなど気晴らしをされている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望・力に応じて自己管理・預かり金にて管理している。また、買い物の希望があれば職員同行し自分で選び支払いしてもらうよう管理している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>各々の体調を考慮して天気の良い日など散歩に出たり、買い物に行くなどの支援をしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節ごとの行事に応じて家族と一緒に出掛ける機会を作り支援している。また、個別で家族と一緒に出掛けること等も支援している。(外食・墓参りなど)</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、職員が電話のみ行い本人に代わり話しをしていただくようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由に行っており、家族・知人・近所の方々が気軽に来ていただきホールまたは個人の居室にてゆっくりと話しをしていただくように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束について勉強会・講習会を通して正しく理解しており、共有している。当ホームでは身体拘束しないようなケアに向けて取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	十分な見守りにて、各居室には鍵はなく、日中玄関も開放しており、鍵をかけないケアを実践している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者のプライバシーに配慮しながら、所在確認・様子が把握できるよう配慮している。夜間は1時間毎の巡回を実施している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の目の届かない所に危険物はしまっており、使用する場合は職員が見守りしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止委員会・リスクマネージメント委員会など法人内グループの勉強会で防止策を学んで防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルA C L S 講習など定期的に行い、法人内の救急蘇生委員会の看護師からA E D使用方法・救急蘇生法の指導をしてもらっている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で非難・防災訓練を定期的に地域の方々も参加して行っている。災害時に備えて避難場所を地域の方にも理解していただき、また全職員も熟知している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	思い思いの生活をしていくうえで常にリスクが伴うことを家族にしっかり説明し話し合い記録に記入し共有している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、起床時バイタル測定を行い、いつもと違えば、日中もバイタルチェックし、すぐ対応できるように努めている。夜間はホーム長・看護師長へ連絡し指示を受けている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬の文献はファイルして、常にすぐ見れるようにしており、薬について確認・理解している。服薬管理行い見守り・介助・確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給では、十分気をつけながら1日の摂取量を記録し、排便コントロール出来ない方は必要に応じて下剤を使用するなどし調節をしている。毎朝、ラジオ体操・ストレッチを行い、排便を促すよう適度の運動を行うように取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、出来る方には声かけを行い歯磨きしていただき、介助必要な方には介助にて誘導し義歯洗浄・うがいを行い清潔保持努めている。義歯使用の方は夜間職員が預かり義歯洗浄剤にて消毒している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士が作成したメニューを見て作っている為、バランスの取れた食事をしている。3ヶ月に一度、栄養指導を行っている。水分確保については、毎回水分量チェックし1日の摂取量も計算して調整している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザ予防接種は入居者全員・職員全員摂取受けている。常に身の回りの持ち物などへの消毒を行っている。また、法人内の感染予防委員会にて対応策について検討し、感染マニュアル標準予防策の徹底に取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理する際は、食材には必ず火を通し十分注意している。手洗いは常に行い食器なども漂白剤へつけて時間置き・洗い・乾燥している。栄養管理チェック表へ毎食作る前チェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設医院と建物が同じだが、わかりやすい看板を掲げている。入り口には、玄関まわりを家庭的な雰囲気が出せるよう季節の花を入れたり季節の飾りを置いて工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を味わいながら生活していただけるよう、食器・食器棚・エレベーター前など工夫している。また、廊下の壁などに季節感ある物を飾ったりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端などの所で日差しの良い所へ椅子・ソファ・机を置き入居者が自由に楽しく過ごせるよう工夫しながら支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人一人の安全面に考慮しながら、本人が使い慣れたタンス、仏壇、家族の写真などを持って来ていただき、以前と同じ様な生活を送って頂けるよう工夫して行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の状況に応じて職員にて温度調節を行っており、換気も十分気をつけて行っている。各居室には加湿器のおいて使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人にあったベッドを使用し高さもあわせており、より良い生活をしていただけるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者方の状況に応じてゴミ出し・洗濯物たたみ・食材のもやしの根とりなどの手伝いを声かけ行い手伝っていただける範囲で行ってもらっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候良く天気が良い日に職員と一緒に花壇がある所へ行き、コミュニケーション図りながら季節の花を見たり水やりをしたり、陽の当たるベランダにて仲良しの方同士で日向ぼっこなど楽しんでいただけるよう支援行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々人の個性を大切に尊重し、その人の持つ能力を充分発揮できるようにしています。4階は、最長年齢101歳の方がお元気で、明るく活発な性格で、他の入居者の方も歌が大好きな方が多くいつも賑やかに皆で歌を唄ったり、詩吟を唱える方もあり、ホームの理念に沿ったまさに「笑顔でいきいきとその人らしくともに暮らしています」です。面会の方やボランティアの方々が来られた時は一緒に楽しめるよう雰囲気作りに力を入れています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ぬまくま (5 階)

評価年月日 2010 年 2 月 26 日

記入年月日 2010 年 2 月 18 日

記入者 代表/管理者 氏名 池原 スエ子

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	基本理念「笑顔でいきいきと、その人らしい人生をおくれるよう支援します」をもとに職員一同は入居者・併設医院の患者様とともに支援します。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	各階スタッフルーム・廊下に掲示スタッフの名札の裏にも明記しフロアミーティング・勉強会・ケアカンファレンス等で再確認し実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	エレベーター内に掲示するとともに家族や運営推進会議等で機会あるごとに説明し地域の方々への理解、協力をしていただける様取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	併設の医院を含め、なじみの近隣所の方が立ち寄り、季節の花や野菜など持って来られたり気軽に挨拶したり、声かけあったりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域の行事や奉仕活動等、可能な限り参加し、日常のつきあいに努めている。敬老会・夏祭り・進水式等一緒に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者など訪問され一緒に話したり、地域の夏祭り・敬老会・福祉フェスタ等へ作品を提出したりと可能な限り協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員は自己評価・外部評価を実施する意義をミーティング・勉強会などで日頃から課題にし不足部分の改善に努め、サービスの向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告・意見・要望などをフロアミーティングで周知し、そこでの意見を活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて社会福祉協議会（金銭管理）、市の担当職員または保健福祉課（生活保護担当者）等の市町村福祉関係者と連絡・行き来したりして連携をとっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講演会・法人内勉強会への参加を促し、必要な方には社会福祉協議会のかけはし制度や精神障害保険等実際に活用支援を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人内外の講習会・勉強会で学ぶ機会を設けたり、グループホームの協会の刊行物等の情報を共有したり虐待につながる行動を見つけ出し虐待防止のマニュアルを作成し防止につとめている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時契約書・重要事項説明書などの資料に基づいて充分説明し不安・疑問点があればいつでも尋ねて頂くよう、また解約時も話し合い理解・納得していただくよう説明している</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱設置したり、入居時に公的な苦情・相談機関があることを説明し、出来る限り職員に何でも話し合えるような関係になるように促している。意見がある時には全職員で話し合いをし対策を検討している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金については面会に来られた時確認・サインをいただいている。ホームでの生活・健康状態等は面会時に報告、又急を要する場合は電話などにより報告し記録している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議、家族会などで意見交換の場を設け、管理者・職員にも相談いただきその意見を全職員共有・反映するよう努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロアーミーティングなどで出された意見をリーダー会議・法人運営会議で検討したり、また個別にヒヤリングを行い運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて可能であれば勤務交代したり、他ユニットとの連携を取ったりホーム長が対応したり職員配置している。人手の要する行事等はボランティアの応援をしてもらっている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>マンネリ化防止又活性化のための異動は行っているが、最小限に努め、入居者の不安、レベル低下にならないよう注意しながら配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じてOJTや社外研修等で育成を図る。合わせて、目標管理により、自己啓発の促進をおこなっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の委員会などを通じて交流したり、関連のグループホーム間で月1回話し合い勉強会を行いお互いに刺激しあって、サービスの質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員のストレスを軽減するよう各行事を行ったり年2回の親睦会を行ったり個人との話し合いの場を設ける等工夫している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は年度始めに自己目標を立てて、それに向けて取り組み管理者はそれを把握し努力や実績の評価をし運営者は目標管理を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時家族及び本人から情報を受け、不安なこと、要望など話し合い、安心して暮らせるような環境づくりに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前及び入居時に家族の要望、要求、意見等に対して充分話し合いを行い、不安解消に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フロアーミーティング等により支援の見極めを行い対応したり、ケアマネージャーや居宅介護支援事業所の連携取り、必要としているサービス利用を行うように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、入居時職員、及び入居者に紹介等して安心して過ごせる様気配りをしている。趣味等の情報を集めて他入居者とのコミュニケーションが取れる様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できる事は手伝って頂いて、生活の中で行事、レクリエーション、日常会話の中で家族のように共に支えあって信頼関係を築くよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の協力により、花見、夏祭り、忘年会等一緒に参加して共に楽しんだり、出来る限り面会していただいたり、触れ合ったり、なるべく協力して頂くような関係を築いている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時、入居者の状況を報告したり、相談したりと積極的に、よい関係作りに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に馴染み場所にドライブして行ったり、面会時には、ゆっくり話が出来よう配慮したり、間に入っていい関係作りができるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゲーム・唄・昔の行事など一緒に唄ったり話をしたりして互いに楽しく過ごせる様支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて情報提供を行い、可能であれば面会したり、ホーム便り、広報誌など送付したり、関係を大切にしている。関連事業所とも連携を取っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、家族の希望，意向を重視し他入居者の調和を考慮しつつ、本人本位の暮らしぶり、気持ち、思いを大切にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族の情報や会話や本人との会話、暮らしぶり等により把握する様努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、申し送りや、経過記録等により全体で把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、常にカンファレンスを行い本人・ご家族・関係者が意見を参考に作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの期間は6ヶ月で行っている。間で変化があれば、随時対応している。1ヶ月に1回モニタリングを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・経過記録に記入し介護計画の見直しに利用している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の病院・併設の医院・訪問診療・訪問リハビリ等を活かして対応している。必要に応じて家族同伴にて他の医療機関に行かれるよう支援している		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事に参加したり、ボランティアの方による演奏や保育所の訪問や消防訓練を地域の方と行ったりなど協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の希望を聞き、訪問リハビリや訪問診療、訪問栄養指導やかかりつけの医院を利用など支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まり居宅介護支援事業所との連携で相談したり、アドバイスを受たり他のサービス利用について相談、連携している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同施設内にある医院より訪問診療や訪問看護師から日常の健康管理のチェックをしてもらっている。希望あれば、適切な医療機関に受けられるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	希望により併設の医院の専門医を受診したり、職員が相談して適切に支援してもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設医院の看護師に何かあれば直ちに連絡が取れるようにしている。また、まり訪問看護ステーションと連携とり24時間体制で急変時の対応の指示、相談に応じてもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向け医療機関との連携を取りながら医師と看護師との情報を共有したり、場合によっては家族にも病状説明もしていただけるよう連携する体制をとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応による指針を入居時に家族に説明し、書面に記入してもらい必要性に応じて本人・家族・医師と話をしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで穏やかに過ごしてもらえるように本人・家族・医師の意見を取り入れながら支援している。本人、家族の希望があれば、協力機関と連携取り、見取り介護計画を立てて、穏やかな終末期を迎えるような体制づくりを整えている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームから本人・家族等の希望により別の場所へ移ったりする場合は本人に関わるスタッフを中心に十分な情報を交換しダメージを和らげることに努めている。情報提供書に事細かに作成してダメージを最小限に防ぐように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の人格を尊重した声かけや記録をする事に気を配っている。個人情報取り扱い機密に従い保管している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望により外出・買い物の支援を行ったり、希望によりちまきを作ったりちぎり絵をしたり皆で楽しみながら暮らせるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせ、水分摂取や食事・入浴など日常的支援をしたり、不安などがある場合、訴えを聞いたりして本人の希望を尊重している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月1回地域の理容院が来訪されて希望者は切ってもらっている。外出時には洋服を選んで着ていただくように支援している。入居者によって口紅を引かれる方もおられる</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>家族会とお花見等でお弁当を食べたり、お誕生日会や季節の行事などの際には入居者の方の好み・希望によりメニューを決め作ったりして楽しんでいる。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>誕生日会や家族会行事等に日頃メニューにないような食事を提供したり、飲み物も適量に楽しんでいただいている。花見や忘年会などの行事にはお酒やビールも適量飲んで頂くよう支援している</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い快適に過ごして頂くように極力オムツ使用はしないよう努めている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	基本的には午後入浴になっているが、その日の状態や希望により午前入浴も行っている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	一人ひとりの生活パターン、身体面を考慮した上で自由に休憩をして頂いているが日中はホールで過ごすよう声かけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	洗濯物たたみ・もやしの根とり・テーブル拭き等できる方には手伝って頂いている。趣味で編み物をしたり気晴らしができるよう支援している。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	希望により買い物にスタッフ同行で行かれ支払いをされたり、管理できない方はスタッフが代換したり、管理しながら、使えるように支援している。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	天気のいい日にはドライブや日光浴や散歩を支援している。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	本人の希望がある方に個別に馴染みの親戚などたずねたり、行事の花見・もみじ狩り・外食等家族の協力も得て出かける楽しみを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には自由に使って頂いている。正月などには全員に年賀状を家族へ送ることを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問して頂き、ゆっくりと出来るように居室に椅子を準備したり談話したりお茶を提供したりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業者としての身体拘束の指針を作成して、ホーム勉強会も行い、周知している。月1回、身体拘束廃止委員会を実施し身体拘束ゼロに努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	十分な見守りにて居室は鍵はなく玄関も日中開放しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在や様子は把握して、見守りをしっかりとしている。夜間は1時間ごとの巡回を行って安全確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等の危険物は目につかないところに片付けている。入居者一人ひとりの能力に応じて職員が見守り管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒委員会・リスクマネジメント委員会等の勉強会に参加し事故事例の検討や防止対策等行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDの講習や緊急時のマニュアルの確認等定期的に行っている。年1回、法人内救急蘇生委員会からAEDを使用した救急蘇生の体験講習も行っている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行い地域の方々も参加され避難方法、災害時の避難場所など理解して頂いたり、協力していただくよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりにリスクがある事を家族に説明して話し合いその記録を共有している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜勤者が毎朝バイタル測定を行い体調に変化があればすぐ対応出来る体制をとっている。夜間は医院の看護師の助言を受けたり、24時間体制の訪問看護ステーション、同一法人の病院での対応も行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬されている薬の文献をファイルして職員が把握している。薬の管理のできない方は職員が管理しその都度渡している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝体操し体を動かしている。一日の水分量をチェックして不足している時は飲んで頂くよう努力している。必要に応じて下剤にて対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけにて歯磨きをしてもらう。介助が必要な方ははブラシ・ガーゼを使用し口腔清拭を行い、口腔内の残渣物の確認もしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立のため栄養のバランスはとれている。水分量は水分チェック表にて確認している。3ヶ月に1回栄養指導を受けて記録を保管している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策の勉強会に参加し予防に努めている。感染予防対策委員会もあり消毒リストを作成して毎日チェックして予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・まな板・台拭き等ハイターにつけ除菌している。食材は必ず火を通すよう心がけている。調理前には衛生チェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場周りに花壇があり四季折々の花を植えていて、また分かりやすい看板、ネーミングなど掲げて入りやすく工夫している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階のエレベーター前には季節に応じた飾りつけをしたり生け花をしたり居間や廊下には絵画や写真、皆の作品など掲示し、居心地よく過ごせるように工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の窓側にソファを置き、外の風景を見ながら過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きなようにして頂いている。時計やソファなど自宅で使っていた馴染みの仏壇、写真など置かれて、家庭で暮らしているような雰囲気作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際に換気を行っている。温度調節は設定温度を決めているが、状態に合わせてこまめに調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場や廊下・トイレ付近に手すりを設置。ベッドも本人の身体状況に合わせ高さの調整ベッド対応している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室が分からない方は、飾りをつけて目印したり、トイレには、大きく矢印つけたり、張り紙などわかりやすいようにして混乱をふせいでいる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外に花壇があり、花を植えたり水やりしたりと一緒に楽しんでいる。屋上のサンルームも日光浴したりランチを楽しんだり、ベランダでは干し柿を作ったりといろいろと利用している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者個々人の希望を含めた日替わりメニューでレクリエーションやサークルや趣味の活動に力を入れている。具体的には、計算ドリルや習字、旗上げ体操、唱歌、塗り絵、カレンダー作り等、消極的な方も皆の雰囲気やだんだん積極的に楽しみに変わり、皆で毎日楽しく張りのある生活を送るように心がけています。